

# 大阪の教育をゆがめている チャレンジテストは廃止を

大阪府下の公立中学校3年生約6万人を対象にした「チャレンジテスト」が6日(火)に実施されます(ニュース配布時には終了)。昨年度から一定の「改善」がなされていますが、大阪の教育を大きくゆがめる本質に変わりはありません。改めて、教職員から反対の声をあげていきましょう。

## テストの目的

実施要領では、学力を把握・分析することにより、府教委・地教委・学校・生徒がその改善をは

かることを目的とする「行政調査」であることが冒頭に示されます。ところが、「加えて、結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担

保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。」とあるのが問題です。一見すると、提供を受けた中学校が自主的に活用するように見えます。しかし実際には、テスト結果により、中学校ごとに府教委から評定の範囲が指定され、範囲内におさまっていない場合には「見直し」を行うという「府内統一ルール」があり、評定の変更が行われます。

変更しない場合は、府下全ての公立中学校が使用している「調査書作成ソフト」がデータを受け付けてくれませんので、評定の変更が強制されることとなります。

結果が入試に直結するため、各中学校では様々な「対策」が行われます。「過去の配布」は当たり前、「独自の対策プリント」を作成し、夏休みに特別講座を開催」という中学校もあり、中学校の教育課程に大きな影響を与えています。

また、中学校の平均が評定の範囲を決定する制度のため、勉強の苦手な生徒が「自分が欠席したほうがみんなのためになる」と発言する例も見られるなど、集団作りに暗い影を落とす例も報告されています。

## テストが無くて

一昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、3年生のチャレンジテストは中止となりました。その際に、吉村大阪府知事は「(評定については)これまでのテストなどもあると思うのでそれを基

## 教育がゆがめられる

結果が入試に直結するため、各中学校では様々な「対策」が行われます。「過去の配布」は当たり前、「独自の対策プリント」を作成し、夏休みに特別講座を開催」という中学校もあり、中学校の教育課程に大きな影響を与えています。

## 第2回先生のがっこう 弥生文化博物館



## テスト優先の教育 見直しを

に適切に行うよう教育長に通知する。」と発言しました。首長が入試制度に干渉するのは「不当な介入」ですが、それでもチャレンジテストが無くても評定は可能なことを示す発言の一例です。(府教委は中2の時のテスト結果で評定の範囲を強制しましたが・・・)

チャレンジテストだけでなく、「全国学調」「すくすくウオッチ」など、次々調査(テスト)が強制されています。本当に必要なのでしょうか。「テスト優先で教育減ぶ」となっていないか、今一度考えなければならぬと感じます。



上映会のご案内  
9月23日(金・祝) 泉の森ホール / 小ホール(泉佐野市)  
① 10:00 ② 14:00 ③ 18:00  
10月2日(日) 滝切ホール / 小ホール(岸和田市)  
① 14:00 ② 18:00  
主演 / 映画「わが青春つきるとも -伊藤千代子の生涯-」 泉南地域上映会実行委員会

戦前の日本で「国民権、ジェンダー平等」等を求めて運動し、治安維持法違反で検挙・投獄され24歳で病死した 伊藤千代子 の生涯を描いた映画「わが青春つきるとも」が上記日程にて上映されます。(問い合わせは泉北教組へ)